

一般社団法人 奈良県建築士会は、建築士法にもとづき、建築士の社会的地位の向上と建築文化の進展並びに建築の専門家としての社会貢献などを目的として、昭和26年11月に設立されました。行政や各種団体と連携を図りながら、職能を活かして、地域に根付いた活動を進めています。

近年、建築に関係するものでも、人口減少や住宅の老朽化による空き家の増加、毎年、発生する水害や地震の被害の増大、高齢化の進展、既存ストックとしての歴史的建築物の活用、景観の問題などが挙げられます。これらの問題について、活動を進めていきたいと考えています。(ホームページより抜粋)

建築士をはじめ、ゼネコン・中小工務店から、都市計画の専門家等、あらゆる業種の優秀な会員が集まっています。

情報誌「士会奈良」の表紙は「奈良の駅シリーズ」として万葉まほろば線の駅舎を連載されています。明治時代に建設された駅舎の魅力を再発見していただき、駅舎のデザイン上の発見・再発見、駅舎の活用、駅を基点としたまちづくりを紹介している。

今回、天理駅を取り上げられた。

◎天理駅の沿革

明治31年：奈良鉄道の丹波市駅として開業

明治38年：関西鉄道の駅舎となる

大正4年：天理軽便鉄道（現近鉄）の天理駅開業

昭和40年：国鉄線高架化で駅移転。天理駅に改称し近鉄と駅統合。(右写真 旧国鉄天理市駅)

◎天理駅前広場 2017年「コフフン」完成(古墳からデザイン)主構造物はプレキャストコンクリート(PC)造を紹介。

SHIKAI NARA 2024 NARA 1月号 VOL.536

奈良の駅 シリーズ Vol.04

駅名：天理駅



【駅舎概要】
所在地：天理市川原町 816
区域区分等：第一種住居地域
構造・規模：RC造2階建
建築時期：昭和40年
【沿革】
明治31年5月：奈良鉄道の丹波市駅として開業
明治38年2月：関西鉄道が奈良鉄道を合併、関西鉄道の駅舎となる
大正4年2月：天理軽便鉄道（現在の近鉄天理線）の天理駅開業
昭和38年5月：国鉄丹波市駅が天理市（てんりし）駅に改称
昭和39年10月：近鉄天理駅が軽便線を継承
昭和40年5月：国鉄線高架化に伴い線路付け替え・駅移転。天理駅に改称し近鉄の天理駅と駅統合

■天理市の歴史
天理市は昭和29年山辺郡丹波市町・朝和村・福住村・二階堂村・添上郡櫻木町・磯城郡柳本町が合併して発足。天理教の名を冠した宗教都市である。天理駅は天理市中心部に位置する。天理駅のホームは2階建て。4ホームの内2ホームは天理教の団体専用ホームとなっている。現在の駅舎は昭和40年に区画整理事業にともない統合移転したものであり、それ以前は線路が現在位置から東へ100mほどのところを南北に走っており、当初の駅舎は現在の天理市民会館の位置にあった。築物と線路線とを結ぶ部分には田町付近に始まり、歩いてみると途中に当初と思われるレンガ積みの構造物を見ることができ、北大路通りをさらに北上し田町の現在がブレイク工場があるあたりで合流していたようである。

■天理駅前広場
2017年に現在の新しい駅前広場「コフフン」が完成した。天理市には約1800基の古墳が残り、佐藤オキキ氏ら「endo デザイン」は古墳の文化を継承し、天理市が「コフフン」と題して実際の古墳を模してデザインしたプレキャストコンクリート(PC)造、放射状の38分割されたPC部材を現場において圧着接合している。広場内には総合案内所、カプセルレストラン、ショップ、遊具、屋外ステージが備えられている。

■SHIKAI NARA 2024, 01



当初の天理駅の様子
昭和40年(1965)旧国鉄天理市駅構内・国鉄天理本通り跨線橋から
写真提供：西田博嘉氏